

若松北海岸地域の観光振興策について

(有) ネイバーズ代表
森脇 喜一

若松あつまる会会員、釜山市影島（ヨンド）区視察



若松北海岸地域における観光振興のヒントを探るため 若松あつまる会会員を中心に、4月1日から2泊3日の日程で釜山市ヨンド区を視察



影島(ヨンド)区長・関係者との懇談

造船業の低迷による企業倒産が相次ぎ釜山市の中でも衰退著しい地域だったヨンド区は、

「芸術と都市のなかの島・文化都市ヨンド」をコンセプトにした都市再生事業に取り組み、海沿いのカフェ街は多くの若者が訪れる人気スポットになっている。

今回の視察では、そうしたカフェ施設を中心に、都市ブランド・ロゴの制作や芸術文化事業など、プロジェクトリーダーとの懇談を通じて多くの知見を得ることができた。

釜山市ヨンド区の現況



・人口：10万3737人（釜山市総人口：329万人の3.2%）

（若松区人口：77,854人）

・面積：14.2m²（釜山市全域の1.8%）

（若松区面積：72.10km²）

韓国の近代造船の誕生の地であり、海事クラスターが形成され、海洋産業のメッカになっている。

近年、文化観光都市を目指した観光資源の開発、都市ブランディングによる新しい観光資源の開発など、海洋文化観都市としての「まちづくり」が進められている。

・都市再生事業の特徴

造船産業の不況により閉鎖した廃工場や空屋の建物を再生し、様々な複合文化空間として利用。カフェを中心に飲食サービス産業が活性化。

釜山市中心部と橋で結ばれたヨンド(影島)区は、かつて造船業が盛んな地域であったが、2000年以降、船舶需要が低迷し、造船関連企業が相次いで倒産。市内15区のなかでも開発の遅れた地域として衰退が顕著であった。

● 民間資本による都市再生事業

MOMOS café

造船関連の工場と倉庫の敷地を活用し、2021年、都市再生複合地域体験空間として再生

One Z(ワンジー)カフェ

廃倉庫を再生利用したカフェレストラン。展示会や文化イベントなどが開催できる複合文化空間

大型複合カフェ「P-ARK」

大型カフェや文化施設ができたことで、文化の不毛地あったヨンド区のイメージが変わってきた。国内で人口消滅候補第1位と言われたヨンド区が危機的状況から抜け出すことができた。

● 「カフェ文化」が盛んになった背景

2016年12月、金属製品を生産・輸出していた会社が古い事務所を改造してカフェをオープン。若者を中心にSNSで拡散され、この場所が若者を引き付けるようになった。

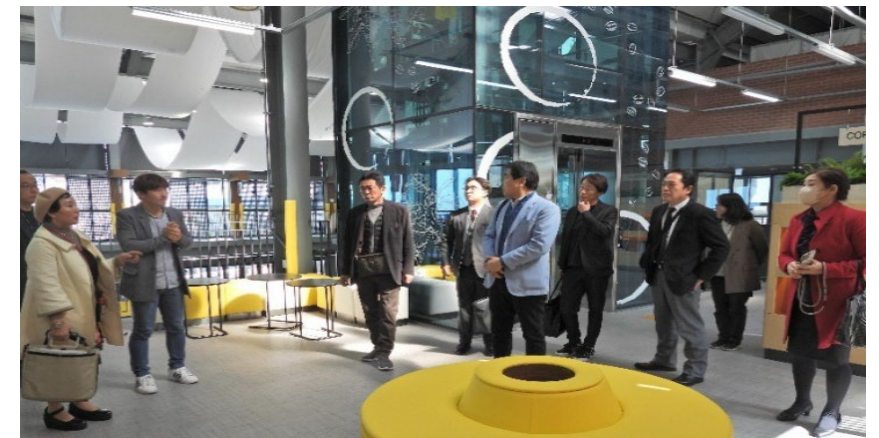
こうした状況を見据え、即断力のあるオーナー経営者らの「コーヒーを売るのではなく、コーヒー文化を売る」との発想が、行政を動かし、ヨンド区も都市戦略の中心を「カフェ」に置くなど、大型カフェの建設に乗り出した。

行政の方でも人口減少への戦略的な対策として、カフェ文化振興に関する支援事業を推進。

2019年からコーヒーフェスティバルを実施。今年の5月23日～25日まで、国内最大規模のグローバル・コーヒーフェスティバルを開催。

(海外8カ国、参加企業90社、予算規模は4億ウォン。区予算や参加企業からの参加費、国の人口消滅対策基金や韓国コーヒー協会から拠出)

カフェの出店数は、自社でローステイングまでやっているカフェが11店、その他、特色あるカフェが240店(2023年現在)





MOMOS caféでの説明



OneZ(ワンジー)カフェ代表との懇談



大型複合カフェP-ARK屋上テラスにて



ヨンド区まちづくり担当者との面談(P-ARK)



ヨンド区が運営する
オートキャンプ場でのブリーフィング



ヨンド区が運営する
オートキャンプ場アートオブジェの前で

- ・2019年に実施された国の地方文化振興プロジェクトにヨンド区が選ばれ、5年間で160億ウォンの投資支援を受けることになった。

- ・人口の減少によって消滅危機にあったヨンド区
の状況を憂う地域住民の声を聴き、これを具体的
な政策に反映したことが高く評価された。

- ・造船業の衰退で若者の働く場が無くなった町を
文化芸術、観光の場に替え、新たな雇用機会を
創出した。

- ・文化芸術を通じて高齢者の孤独を癒す事業を
多角的に展開することで、ヨンド区ならではの個性
的なまちづくりが功を奏した。

- ・この5年間で、ヨンド区の文化関連事業者数が
釜山市全体平均に比べ、映像が5倍、デザインが
3倍、出版業が3倍上回った。

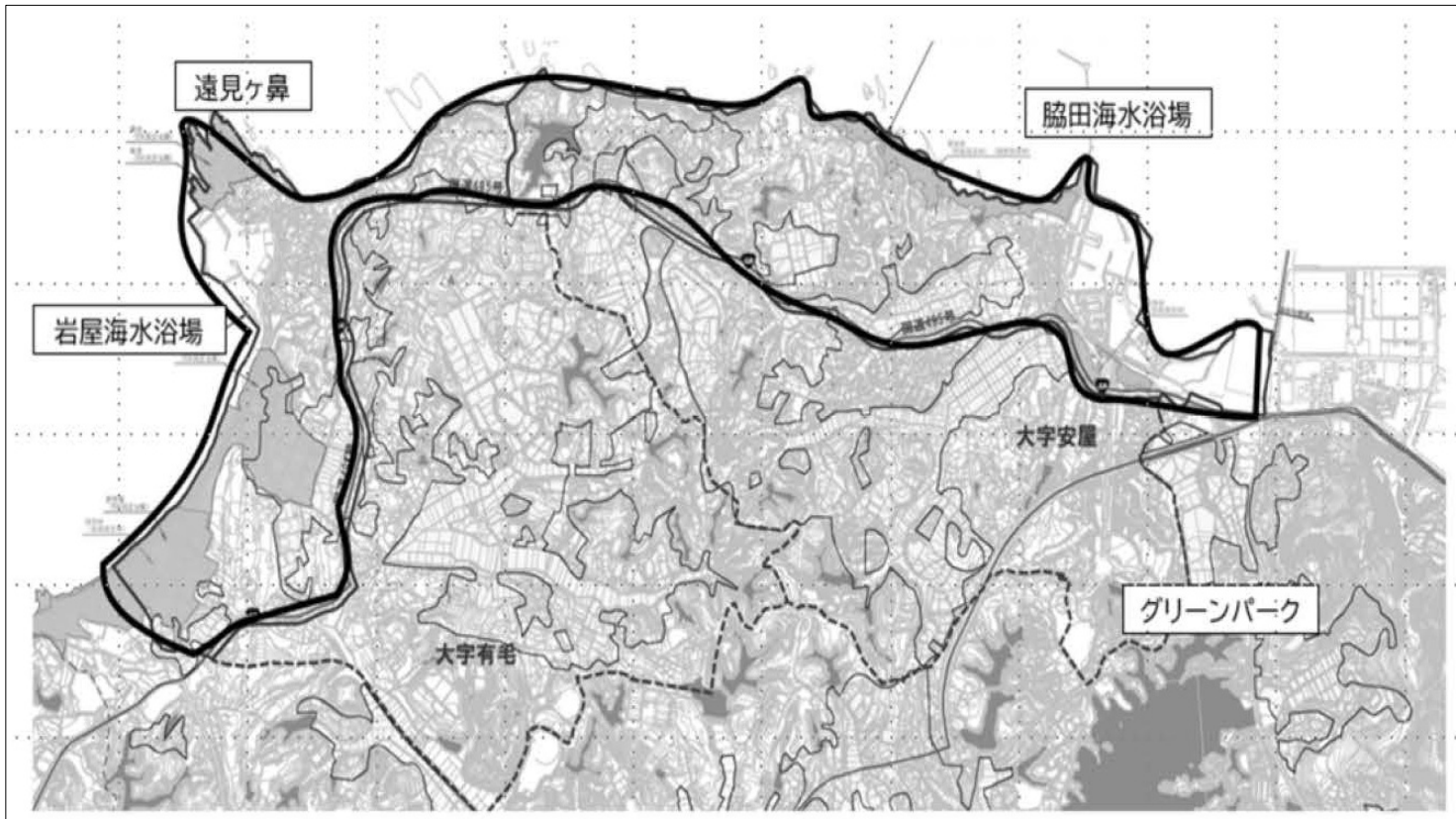
- ・釜山市で最も文化部門の雇用が拡大したヨンド
区は「文化都市」のイメージが定着した。

- ・ヨンド区民の繋がりを表す「ヨンド体」と呼ばれる
フォントが世界の4大デザイン賞を受賞したことで、
まちづくりの対する区民の自信が高まってきた。



若松北海岸地域の観光振興策

若松北海岸地域は、緑豊かなグリーンパークや頓田貯水池、洋上風力発電と夕陽が臨める脇田海岸、マリンスポーツが盛んな白砂の岩屋海水浴場など、魅力的な観光エリアが隣接している。こうした特性を踏まえ、活力ある地域づくりを進めるためには、**各観光スポットを有機的に連携させ、地域内での回遊性を高める**ための包括的な取り組みが必要であろう。



さらに、地域の人々が地元の観光資源を活用して旅行商品を開発・PRするといった「着地型観光」のまちづくりが注目されるなか、**訪問者の滞在時間を延ばし、観光による経済効果を地域全体に波及させる「しくみづくり」**も重要である。

北海岸地域の人々が地元の観光資源に磨きをかけて魅力を増大させ、**地元主導による滞在型観光の推進**に繋げていくことが、「**稼げる」地域実現**に向けた課題であると言える。

若松北海岸地域の観光エリア



I. 若松北海岸地域の現状と課題

● グリーンパーク・頓田遊歩道エリア

グリーンパークは、開園から30余年が経ち自然体験や環境学習、家族向けレジャー施設として年間50万人の行楽客が訪れている。

隣接する頓田貯水池はバードウォッチングや四季折々の風景が楽しめる「癒しの空間」として親しまれ、全長約5kmの散策コースが整備されている。

● マリンスポーツ振興エリア

マリンスポーツが楽しめる岩屋海岸は透明度の高い海白い砂浜が魅力の海水浴場でもある。

毎年5月に実施される海岸清掃活動(ラブアース・クリーンアップ)には多くの市民が参加し、美しい夕日が織りなす風景は写真家の人気スポットになっている。

● 若松北海岸トレイル振興エリア

脇田海水浴場から遠見ヶ鼻までの海岸線は、洋上風力発電施設の眺望や夕陽の絶景、千畳敷、化石地層など、フォトジェニックな景観が広がっている。

しかし、風光明媚な海岸線も、散策できる海浜遊歩道が整備されていないことから認知度が低く、言わば「宝の持ち腐れ」といった感がある。

全長約6kmの海岸線を巡る遊歩道(北海岸トレイル)が完成すれば、北海岸地域全体の観光資源が有機的に繋がり、地域の回遊性を高めることができるため、観光インフラとして具体的な整備計画が急がれる。



● 国道495号線の役割

北海岸地域を東西に走る国道495号線は地域の利便性を高めている反面、訪れる人たちが**北海岸線の魅力に気づかないまま通り過ぎてしまう**ケースが多い。

こうしたことから路線上に点在する**バス停に観光スポットをモチーフにしたデザイン**を施したり、周辺商店や会社などの**PR広告でラッピングしたEV循環バス**を運行するなど、**495号線を北海岸地域全体の観光PR道路**として、衆目を集めるような施策を展開する。

● 観光・回遊の起点になるカフェの誘致

地域おこしに果たす**カフェの役割**が注目されるなか、北海岸地域の観光スポットや休憩場所にカフェがあれば、**訪問客の滞在時間が延びたり、地域の回遊性向上**にもつながる。

最近のカフェは単なる「飲食店」の枠を超え、地域の人々や訪問者が情報交換や交流する場、地域の魅力や資源を発信する場、地元での新たな経済活動や雇用を創出する場、文化の継承と創造を促す場として、**地域の活性化や持続可能なまちづくりにおいて重要な役割**を担っている。

こうした点から、「**芸術・文化を育む拠点**」として北海岸地域の**将来像**を描き、これを新たな観光資源にするためにも、**複合的な大型カフェの誘致**が必要であろう。



Ⅱ．施策提言

本提言は、脇田海水浴場から遠見ヶ鼻に至る海浜遊歩道の整備を前提にしているが、北海岸地域の各エリアを有機的につなぎ、地域の回遊性を高めることを狙いとしている。
したがって、海浜遊歩道が未整備な現状であっても、以下に述べる施策は北海岸地域の魅力向上と活性化を図るうえで重要である。

1. 緑と潮騒を楽しむ「北海岸地域周遊散策コース」の設定

脇田海水浴場から遠見ヶ鼻に至る海岸線に遊歩道を整備すれば、**響灘緑地の深緑と北海岸の潮騒が満喫できる全長約22kmの散策周遊コース**が完成し、北海岸地域の魅力をいっそう高めることができる。

グリーンパーク北駐車場を発着点にして、ひまわり畑前まで循環する**EVバスを運行**することによって、**地域の回遊性が高まり、集客力向上**につながる。



＜北海岸地域散策周遊コース図＞

「若松北海岸トレイル」コース配置図



「若松北海岸トレイル」コースの詳細

釣り桟橋・脇田海水浴場から遠見ヶ鼻灯台に繋がる**全長約6kmの海岸線に海浜遊歩道が整備**された場合、訪れる人々の都合にあった海浜散策を提供するため以下の**4コースを設定**する。



<コース4> 約5.4km

脇田漁港駐車場 → 釣り桟橋(脇田海水浴場) → Tomorrowビーチ → 安屋 → 千畳敷 → 遠見ヶ鼻灯台 → 亀の井ホテルバス停 → **新屋北口バス停**

※ 新屋北口バス停からEV循環バスを利用して脇田漁港駐車場 → グリーンパーク北駐車場へ

<コース3> 約4.0km

脇田漁港駐車場 → 釣り桟橋(脇田海水浴場) → Tomorrowビーチ → 安屋 → 千畳敷 → **千畳敷海岸入口バス停**

※ 千畳敷海岸入口バス停からEV循環バスを利用して脇田漁港駐車場 → グリーンパーク北駐車場へ

<コース2> 約3.0km

脇田漁港駐車場 → 釣り桟橋(脇田海水浴場) → Tomorrowビーチ → 安屋 → **逆水バス停**

※ 逆水バス停からEV循環バスを利用して脇田漁港駐車場 → グリーンパーク北駐車場へ

<コース1> 約2.4km

脇田漁港駐車場 → 釣り桟橋(脇田海水浴場) → Tomorrowビーチ → **後バス停**

※ 後バス停からEV循環バスを利用して脇田漁港駐車場 → グリーンパーク北駐車場へ

- ・ 各コースは北海岸線から国道495号線につながる道路によって区分する。
- ・ 各バス停には「**インスタ映え**」する**デザイン**を施し、**衆目を集め、495号線を観光PR道路**として活用する。
- ・ **495号線沿線での人の流れを作り出すことで、道路周辺へ商業施設(カフェ、レストラン、ショップ)などの出店**を促す。

2. 北海岸観光エリアを結ぶEV循環バスの運行

地域にふさわしい環境配慮型のEV循環バスを導入することで、各観光エリアを有機的に繋ぎ、北海岸地域全体の魅力を向上させると共に、「動く広告塔」としてラッピングバスを運行し、地域PRと一体化した運営を行なう。

将来的には、若松区内の主要観光スポットを巡る循環バスとして、持続可能な観光エコシステムの構築を図る。

● 導入の意義と効果

<環境面の効果>

- ・ EVバスの導入によりCO₂排出ゼロ、騒音も少なく自然環境への負荷を低減
- ・ 地域の環境保全意識を高めることで、「環境共生型観光地」としてのブランド価値が高まる。

<観光面の効果>

- ・ 徒歩で移動しにくい観光エリア間のスムーズな移動が可能になる。
- ・ 高齢者やファミリー層の移動負担を軽減することにより幅広い来訪者層に対応
- ・ グリーンパーク駐車場に車を止め地域内での散策を奨励し、滞在時間の延長及び消費を促進

<地域振興への波及効果>

- ・ 地元の商店・会社・施設のラッピングを施したEV循環バスを運行し、地域PRと一体化した持続可能な観光振興に寄与
- ・ EVラッピングバスや景色をSNSでシェアし、北海岸地域の露出増大と観光客誘致に貢献
- ・ 車内で地域の特産品や飲食店などのプロモーションを行うことで地域経済の活性化に寄与
- ・ 北海岸地域で行われる各種イベントの車内告知を通じて地域の回遊性と滞在時間の向上に貢献

● 導入する循環バスの概要

- ・ 車両タイプ：中型EVバス(定員約20～25名)
- ・ 運行区間：グリーンパーク北駐車場から有毛ひまわり畑前までの区間を循環運行

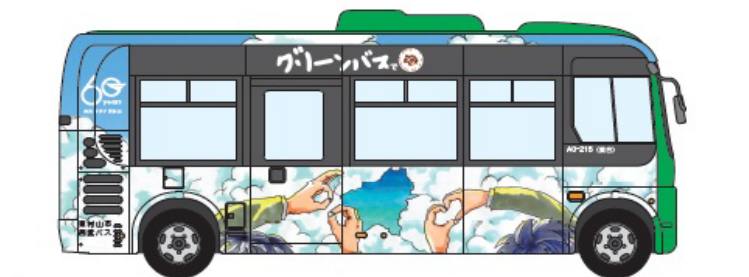
バス停留所：

グリーンパーク北駐車場(始点)→脇田→後→逆水→千畳敷海岸入口→新屋敷北口→有毛ひまわり畑前→新屋敷北口→
千畳敷海岸入口→逆水→後→脇田漁港駐車場前→SIOIRI前→グリーンパーク北駐車場(終点)

- ・ 運行時間帯：9:00～17:00(60分間隔、土日祝中心、繁忙期には30分間隔)
- ・ 運賃：ワンコイン(100円)

● 運行財源の確保について

- ・ EV循環バス導入にかかる費用は行政補助金や地域企業の協賛によって確保
- ・ 環境省や観光庁など、政府機関の補助金制度を活用
- ・ 地元商店や企業、施設などのラッピング広告協賛
- ・ 地域住民との連携イベントを通じたクラウドファンディングを活用



3. 国道495号線沿いのバス停に関するアイデア

国道495号線を北海岸地域全体の観光PR道路として衆目を集めるようにするには、下記の理由により沿線に点在するバス停を「インスタ映え」するデザインに変更する必要がある。

<観光資源への認知度向上>

バス停に観光スポットのデザインを施すことで、通行人やバス利用者に対して「この周辺にどんな魅力があるのか」を視覚的に伝えることができる。特に地元以外の人々にとっては、地域の見どころを知るきっかけになる。

<回遊性の促進>

観光スポットの案内やビジュアルがあることで、「少し寄ってみよう」と思わせる効果があり、複数のスポットを巡る動機づけにつながる。これにより、地域内での滞在時間や消費額の増加が期待できる。

<地域のイメージアップ>

デザインされたバス停は、地域の魅力や個性を表現する「ランドマーク」になり得る。SNS映えや写真撮影スポットとしても機能するため、地元情報の拡散にも貢献する。

<移動手段としてのバスの価値向上>

観光資源と公共交通が結びつくことで、「バスで回る観光スタイル」が形成されやすくなる。
EV循環バスの導入と連動させることで、持続可能な観光モデルの構築に寄与する。

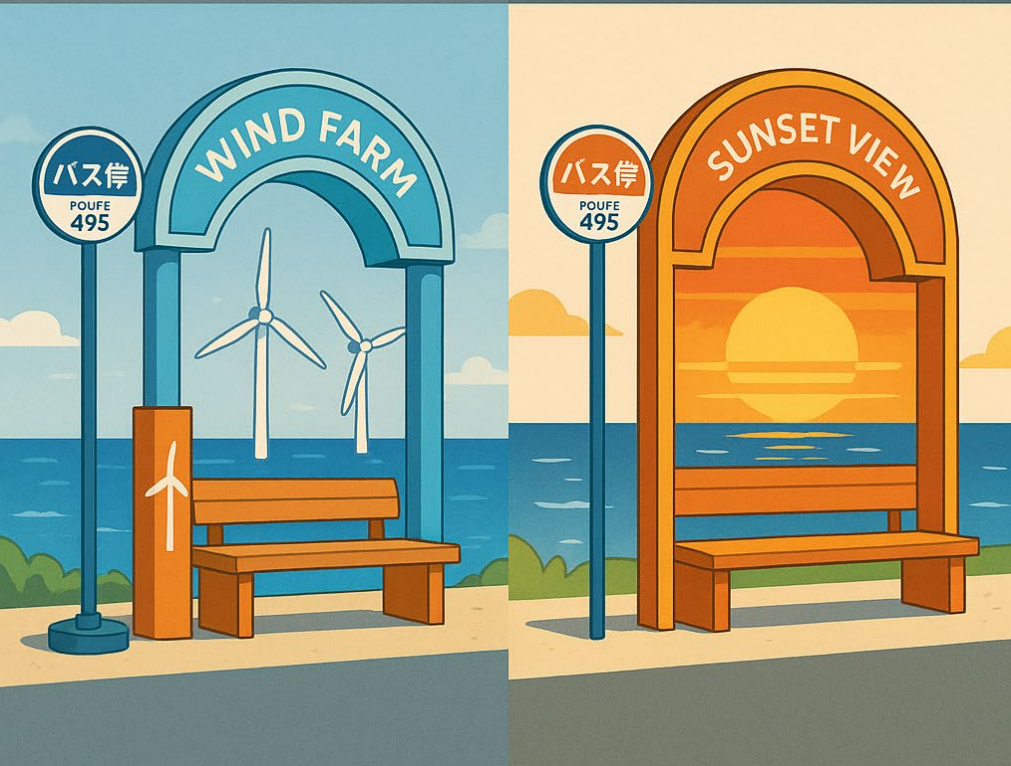
<バス停デザインの市民参加型プロジェクト>

各バス停を「まちのギャラリー」として個性あるデザインにするため、地元アーティスト・住民・子どもたちとコラボし、アートによる街の魅力向上を実現する。



< 国道495号線沿いのバス停デザイン案 >

- 潮騒、風力発電、夕陽、灯台、化石といった**北海岸を特徴づけるモチーフを取り込んだデザイン**が適している。
- また、**夜間でも美しいビジュアルを保つ**よう屋根部分にLEDライトを埋めこんだり、バス停の一部に地域の風力発電や化石に関する情報説明を表示するディスプレイを組み込んだりすれば、観光客や地域住民に対して教育的な役割を果たすこともできる。
- さらに、**バス停周辺に地域特有の植物**を植え、風力発電と自然の調和を感じさせる空間を作り出す。
- こうしたデザイン要素を組み合わせることで、**美しく機能的なバス停**が誕生し、**観光地としての魅力**がさらに引き立ってくる。



< 各バス停のイメージ図 >

4. 若松北海岸海浜遊歩道の整備

(1) 提言の背景

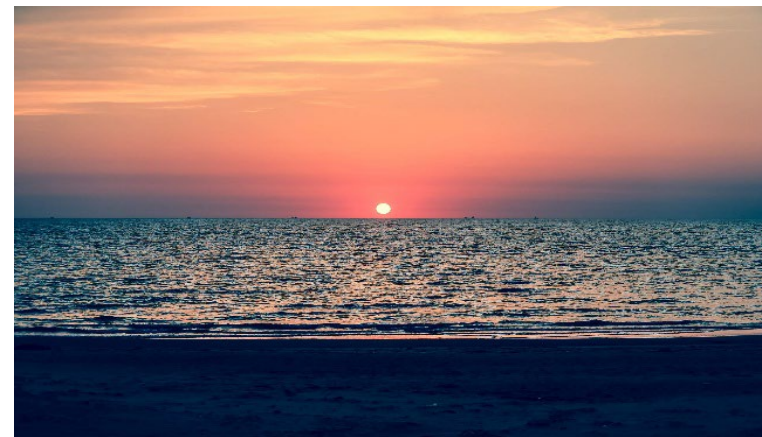
若松北海岸は広大な響灘に面した風光明媚な海岸線を有し、再生可能エネルギーとして注目される洋上風力発電施設や夕陽の絶景スポットなど、産業的な要素と自然景観が融合するエリアである。

こうした特性を活かした持続可能な地域づくりを目指し、**観光・国際交流を促進**するための遊歩道整備を提案する。

(2) 若松北海岸海浜遊歩道整備の目的

地域住民や観光客が自然と共に過ごせる回遊性の高い公共空間を創る。

- ・ 観光客を惹きつける**ランドスケープ(景観)**として活用する。
- ・ 地域の観光資源化と**イメージアップ**による**経済波及効果**を高める。
- ・ 地域住民の健康増進や地域間交流の場として機能を高める。
- ・ 洋上風力や自然との共存を学ぶ**エコツーリズム**への関心を高める。





参考資料:[若松北海岸線空撮動画](#)

✓ 観光振興・地域活性化

- ・ 地域住民や観光客が響灘の景観を楽しめる公共空間 (海岸線遊歩道) の整備
- ・ 響灘と洋上風車の眺望を活かした絶景ルートへの誘客
- ・ サンセットビューを活かした夕陽スポットの整備
- ・ インスタ映え・フォトスポットによる誘客効果
- ・ 家族連れや若者層が集うカフェ施設の充実

✓ 地域経済への波及効果

- ・飲食店、宿泊施設の集客力向上、**地域の稼ぐ力(地域内経済循環)**が高まる。
- ・地域イベント(マルシェ、ウォーキング大会など)の開催
- ・洋上風力発電のPRや環境教育イベントと連動した**新たな産業観光の促進**

✓ 住民満足度の向上

- ・魅力ある海岸線は**SNSを通じて国内外に発信**され、住民の満足度や愛着が高まる。
- ・整備された海岸線は**衆目を集め、密漁など犯罪の抑止**につながる。
- ・夜間照明や防犯カメラの設置による**安心・安全の向上**

✓ 教育・交流の場としての利用

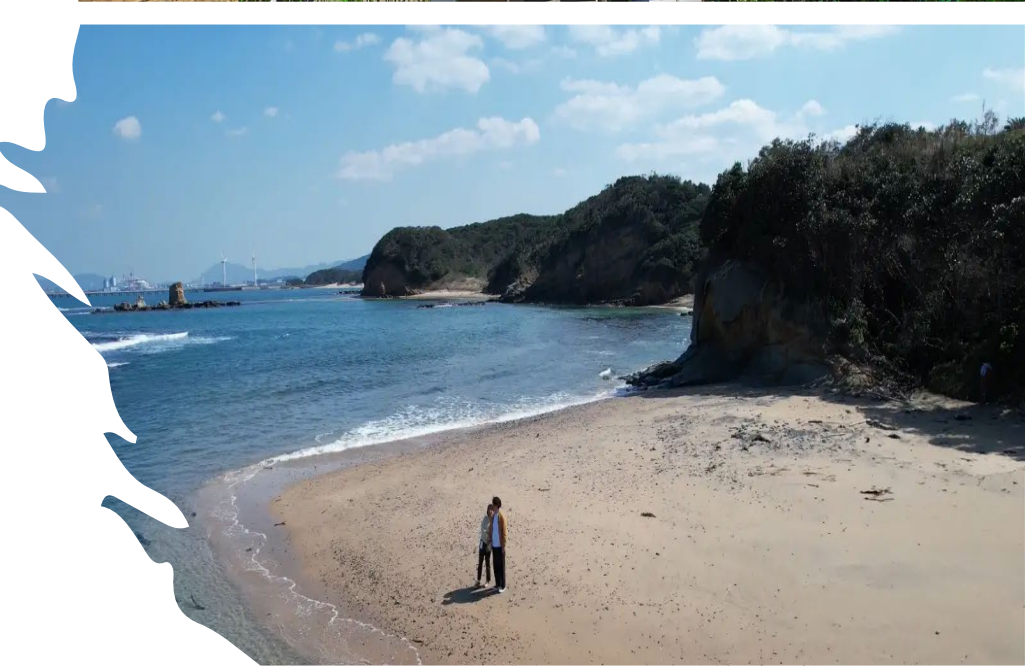
- ・洋上風力を間近に見られる遊歩道を使い、**環境・エネルギー教育**を行う。
- ・化石(遠見ヶ鼻灯台周辺)見学を通じて、**化石エリアの保全や地球環境を学ぶ**。
- ・環境学習と体験型施設を充実させ、小中学生向け**校外学習の拠点化**を図る。
- ・海浜遊歩道の回遊性を生かし、地域住民の交流・ふれあいの場として機能充実

✓ 健康促進・福祉への貢献

- ・市民の健康増進エリアとして日常的な散策・運動を促す「**健康づくりの遊歩道**」
- ・住民や観光客の健康促進、地域への愛着形成、地域交流の場として機能充実

✓ 環境保全

- ・海浜緑地帯の整備や植栽により、**海岸侵食防止や生態系の保全**に貢献
- ・海岸線のクリーンアップ活動など、**住民参加型の環境保全活動**の推進
- ・洋上風力や自然との共存を学ぶ**エコツーリズムの創出**



A scenic view of a rocky coastline. On the right, a steep, dark rock cliff rises, partially covered with green moss and small plants. A dense forest of green trees and shrubs grows on the upper part of the cliff. In the foreground, a group of about six people are standing on a dark, rocky shore, looking towards the ocean. The ocean is a deep blue, and the sky is a pale, overcast blue. In the distance, another rocky coastline is visible across the water.



(4) 持続可能なエリア整備とコンセプト案

- ・ 脇田釣り桟橋から遠見ヶ鼻灯台までの海岸線に沿った

全長約6kmの海浜遊歩道

- ・ 自然素材を生かし景観に調和したデザインの遊歩道
- ・ 北海岸の化石エリア、周辺史跡、洋上風力発電施設などの

案内板・解説パネル設置

- ・ 展望デッキ(サンセットポイント)、簡易休憩スペース、ベンチを設置
- ・ 海岸線ナイトビューに適した夜間照明などの整備
- ・ 防犯対策(密漁対策)用カメラ等の設置

<コンセプト案>

響灘シサードプロムナード

(響灘の風と夕陽、エネルギーと暮らしが調和する道)

(5) 実現へのステップ

1. 地域住民・関係者との意見交換、ワークショップによるビジョン共有
2. 整備対象ルートを選定と概略設計(自然・安全・眺望を考慮)
3. 財源確保: 補助金活用(国・県)、企業協賛、民間投資モデルの検討
4. 段階的施工: モデル区間からの整備・運用 ⇒ 評価と拡張整備へ



ご清聴ありがとうございました。